

富士川游君著日本醫學史授賞ニ關スル審査要旨

本邦支那ニハ古來眞ニ醫學史ト稱スベキモノ無シ。全ク醫學史無キニシモアラザレド、編年體若クハ醫家列傳トモ見ルベキモノ、ミニシテ、上下數千年ヲ通ジテ、醫道ノ沿革ヲ完全ニ記シタルモノ、未ダ嘗テアラズ。泰西ノ醫學史ノ完備セルモノアルニ比シテ、一大缺典ト云ハズバアルベカラズ。

富士川游君ノ著ハセル日本醫學史ハ、上ハ神代ヨリ下ハ現時ニ至リ、我ガ邦醫道ノ古醫法、韓醫法、印度支那醫法ヨリ、近世東漸セシ泰西醫法ニ至ルマデ、善ク其歷世ノ醫學上ノ知識、即チ病理ノ觀察、治療ノ方法又疾病ノ史、國民病ノ史、醫家ノ地位系統、醫事ノ制度、醫學ノ教育病院看護、藥物及ビ歷代醫家ノ事蹟、其言行、醫箴、著書等一切ヲ網羅シ記述シタルモノニシテ、醫學史ト云ハムヨリハ、寧ロ醫史學又ハ、歷史醫學トモ云フベキモノナリ。

本書ノ序論ニ記セル所ヲ見レバ、醫史學ノ内容中、最モ重要ナルモノヲ醫學的知識ノ歴史トス。即チ古來ノ學者ガ、健康及ビ病的ノ人體ノ機能ニ就キテ認識セル事實ト、其經驗及ビ觀察ニ因テ立テタル醫術上ノ原則トヲ、科學的ニ研究スルヲ趣旨トス。又醫史學ノ要トスル所ハ、歷史上ニ於ケル各個ノ事實ヲ、當時ノ社會ノ心象ニ照シ、醫學的知識ノ發達ニ影響ヲ及ボセル所ノ研究ノ精神ト方法トヲ闡明スルニアリ。從テ醫學ノ歴史ハ文化史ノ一部分ニ屬スルモノトス。又醫家ノ地位即チ醫學教育ノ史、病者看護及ビ病院ノ史、醫家ノ運命及ビ其公共生

活ニ於ケル意義等ハ、文化ノ歴史ト相關聯スルコト一層甚シトス。又醫史學ノ領域ニ於テ尙
主要トスベキハ、疾病殊ニ國民病ノ史ナリ云々トアリ。而シテ著者ハ實ニ近世ノ科學ニ因テ、
右等諸項ノ源委發達ヲ研究シテ、之ヲ叙述シタリ。

初メ著者ハ本邦支那ニ此種ノ書絶エテ無ケレバ此書ヲ編纂セムノ志ヲ起シ、多年苦心經營
シテ、自ラ和漢ノ醫書ヲ蒐集スルコト無慮二三萬卷ノ多キニ達シ、傍ヲ遍ク他ノ歴史記錄ヲ
探リテ醫事ニ關スル記文ヲ採收シ、尙ホ名家ノ子孫ニ就キ秘藏ノ珍書ヲ借覽シ、或ハ墓碑ニ
就キ遠近探訪シテ其記載ヲ摘ミ、孜孜トシテ材料ヲ積ミテ、然ル後ニ是等ノ書ヲ參互校勘シ、
涉獵シ、薈萃シ、考究スルコト十數年、而シテ其材料ヲ經緯錯綜シ、出典ヲ列舉シ、考證シ、剖析シ、
鎔冶融合シテ、新開創關ノ體裁ヲ立テ、遂ニ全部ヲ大成シタリ。然シテ此大著ヲ獨力ニテ成
就シタル其識見學力精力洵ニ稱揚スルニ足ルベキモノアリ。稿本ハ三千餘頁ナルニ、刊行ス
ルニ及ビ費用等ノ都合ニ因テ一千餘頁ニ減ジタルモノナリト云フ、以テ原稿ノ更ニ浩瀚詳
悉ナルモノナルヲ知ルベシ。

著者ハ藝州ノ人ニシテ醫家ニ生レ、廣島醫學校ヲ卒業シ、後東京ニ出デ、英語ヲ學ビ、又獨逸
語ヲ攻メ、終ニ獨逸國ニ遊學スルコト數年、彼國ノ「イエナ」府ニテ内科一般ト理學的療法、神經
病、醫史等ヲ研鑽シ、遂ニ「ドクトル」ノ稱號ヲ得タル人ナリ。

著者ハ本書ノ外ニ、著書ニ、醫學上ノ雜誌ニ、醫學醫史ニ關スル論說ヲ發表シタルモノ尙多シ。
殊ニ客年文部省ノ依囑ヲ受ケ、本邦ノ醫史ヲ獨逸文ニテ記シテ獨逸國「ドレスデン」ノ衛生博

覽會ニ出陳シテ、泰西ノ醫學界ニ光彩ヲ放テリ。

著者ノ日本醫學史ハ、實ニ本邦ノ醫史ニ貢獻シタル空前ノ一大著作ニシテ、本邦ニ醫史ナキ
缺陷ヲ補ヘルモノナレバ、其功顯著ナリトス。